

令和3年度 第1回富山県農政審議会の概要

1 日 時 令和3年7月13日（火） 14：00～15：40

2 場 所 富山県民会館8階バンケットホール

3 出席者 委員14名、代理出席3名（委員数24名）

4 あいさつ（横田副知事）

本県の農業は、地域の基幹産業であり、富山県の特徴、アピールポイントである「おいしい食べ物」、「散居村をはじめとする農村の美しい景観」を作り出している産業です。現在の農業は、人口の減少、産業構造の変化、国際情勢、持続可能な社会の実現など、様々な課題に直面しています。

「富山県農業・農村振興計画」の見直しの中で、10年後を目標年として、「農業・農村の目指すべき方向」を明らかにし、将来に向けて農業・農村を発展させるためには、何が必要であり、どんな政策を実施していくべきか、幅広い視点でご意見をうかがいたい。

5 議 事

（1）報告事項

- ①「富山県農業・農村振興計画」の見直しの諮問について
- ②「富山県農業・農村振興計画」の進捗状況について（平成29年度～令和2年度）

（2）審議事項

- ① 新たな「富山県農業・農村振興計画」の策定について
- ②「富山県農業振興地域整備基本方針」の変更について

6 審議事項①についての委員の意見

- ・これからは、スマート農業にふさわしい基盤整備、大区画化の基盤整備というのが必要になってくる。また、基盤整備をするときには、要望地区の手挙げ方式ではなく、中間管理機構が全般を見て、重点地区を選定し、基盤整備を進めていくことが必要ではないか。
- ・用水の事故が多く発生しているので、用水の確認を改めて実施してほしい。また、イノシシ対策として、大雪で壊れた柵などを再生する費用が掛かるので、もう少し良い方法でイノシシの災害を防ぐ方法はないか検討してほしい。
- ・女性中核農業士が減少しており、昨年、南砺市は福光地区と井波地区の女性中核農業士会が

解散してしまった。新規就農者が増えることは、地域の農業が盛り上がるので、がんばる女性農業者支援事業等で、女性農業者の支援をお願いしたい。

- ・規格外の野菜については、野菜の1次加工所のような施設をつくって、会社の社員食堂とか学校の給食とかに利用を進めたらどうか。6次化の進め方を間違えると、本業の農業がおろそかになってしまう。
- ・B級品の野菜などを使って活用しようと、キッチンカーをつくったところ。現在は、コロナの影響で活動できていないが、日本の農家の見本になるような取組みをしたい。
- ・6次産業は、1軒の農家で取り組むのは無理ではないか。地域の人を巻き込んで、共同や集団で行うことが必要ではないか。
- ・若い担い手の育成は大事なことであるが、高齢化の進んだ中で、年を取ってもできる仕事は（規格外品で加工を行っているが、）重要ではないか。
- ・砺波のタマネギなど頑張っている産地もあるが、生産原価を割っている野菜があるのも事実である。販路をうまく見つけて、プロダクトアウトじゃなくてマーケットインの形で行うことが重要である。販売ターゲットを絞って、集中と選択をしながら進めてほしい。
- ・圃場整備については、高齢化仕様、シニア仕様にしたらどうか。水路に落ちないことや、草刈りがしやすい緩斜面ののり面にすること、30～40cmぐらいの犬走を設けて整備することなどを検討してほしい。
- ・農村の防災については、田んぼダムのような、農業用の田んぼを使って地域全体の防災を考える時代であるが、農業生産からは逆行する面もあり、地域のために農家の生産を少し犠牲にすることにもなるので、個々の農家の負担が増えるということを意識した計画にしてほしい。
- ・今回、新たに持続可能な農業の推進が示されているが、農薬を削減するとか、環境への負荷軽減は、これから大事なことで、ぜひ推進していただきたい。また、水環境という観点で、海の汚染を防ぐため、例えばマイクロプラスチックの問題も配慮して、持続可能な農業の推進をお願いしたい。
- ・地産地消の推進としては、新しい野菜、変わった野菜の生産を進めていくことや、持続可能な作り手と売り手を、消費者として応援していける施策を進めていただきたい。
- ・中山間地は、防災、災害という観点からも、中山間地の保全を含めた担い手の育成についてぜひ力を入れていただきたい。持続可能で、特別な役割があるというふうに位置づけて、施策を進めていただきたい。

- ・女性農業者が夜通しジャムの瓶詰めをするのは、一人では大変だと思なので、農商工連携など、加工する側と農業者のつなぎ方をどうすればいいのか、検討してほしい。
- ・輸出拡大については、最近はおrganicとか減農薬とか、高付加価値のものを進めていけば、富山の食のブランドそのものの価値が高まると思う。
- ・安全安心な県産品、特に給食で出てくるものは安心しきっているので、食の安全を心よりお願いしたい。安全な農作物を子供たちにも食べさせたいし、私たちも手に入れたい。
- ・「農育」という言葉、JAでは「食農教育」という言葉も用いられているが、農業体験の実践という観点も加えたらどうか。
- ・ご飯が進むようなご飯のお供の開発だったり、お米とか米粉を使った製品の開発に力を入れたいらどうか。また、料理教室では、お米をとぐところからお鍋で炊くところまで行うことで、子どものお米への関心が高まり、具体的なお米の消費につながるようなことができるのではないか。
- ・富富富は、味的にどんな特徴があるのかが消費者の方に分かりにくく、実際にこのお米がどのように消費してもらおうのか、例えばレシピを募集するなど、具体的なメニューにしてもらうと、富富富を買うきっかけになるのではないか。
- ・担い手の育成・確保は、これからさらに重要となる。新規就農者等の育成、あるいは女性農業者の活躍が新しい視点としてあるが、これをしっかり位置づけて施策を強力に推進していくべきである。新規就農者の育成・確保といった点では、卒業後の支援も含めて、農業未来カレッジの一層の充実強化について検討していただきたい。
- ・野菜のB級品の活用については、学校給食では、一律のものが使いやすいが、多種多様であるからこそむしろ使えるものもある。病院での高齢者向けの食事のように、多様な食の提供ができると地産地消が進むのではないか。
- ・農村問題、中山間の問題では、地域の担い手をどうつくっていくかということを考えないと、農業の担い手は出てこない。農業だけをやるために来てくださいという話には絶対ならないので、中山間地域担当部局と連携しながら、地域の担い手をどうつくっていくのが重要である。
- ・人材派遣ができるような協同組合制度、小さな拠点、地域運営組織、そういうものをしっかりつくっていきながら人を入れ込んでいかないと、農村問題は解決しない。
- ・持続可能な農業では、新技術がどういう中身なのかというのが全く見えてこないが、減農薬や減化学肥料というのは、食育の面からも重要であり、環境の面からも重要性があるので、

富山県としては、水田の新技術をしっかり取り入れて対応して行っていただきたい。

- ・富山県で有機農業を25%まで拡大できるか難しいと思っているが、「有機農業」という言葉を出して、富山県の気象条件でどの程度までできるか、しっかりとした見込みを立てて検討する段階に入らなければならない。とやま農業未来カレッジで、環境に配慮した経営理念を持った新規就農者の育成についても検討してほしい。
- ・農地集積は、これまで富山県は力を入れてきたが、中山間地域のように担い手が足りなくなっている地域では、目標値を見直してもよい段階ではないか。少なくとも平坦地と中山間地域は違いがあってもよいのではないか。

7 審議事項②

事務局案のとおり承認